た，ソサイエティ活性化基金を利用して，海外会員獲得並びに英文論文誌の知名度向上を目指した対策などに取り組む．

◎ 通信ソサイエティ

IT革命で幕を開ける21世紀の情報通信技術を支えるという意味で通信ソサイエティの社会的役割はこれまでにも増して重要になってきている．通信ソサイエティではIEEE COMSOCに続き，韓国KICSとのシスターソサイエティ協定並びにデュアルメンバーシップ制度を開始したのをはじめとして，本年度はソサイエティ大会とAPCC（Asia Pacific Communication Conference）の同時開催を実施する．更に，大会における英語セッション，ソサイエティ活性化基金を活用した英文論文誌の海外へのプロモーション等を通じ，学会活動のグローバル化を積極的に進める．また，会員へのサービス向上を目指し，ソサイエティ総会のインターネット中継等の施策に加え，和・英論文誌のCD-ROM化等を検討する．特にインターネット分野での積極的な活動を促進するため，新規研究会の発足や論文誌特集号の企画等，他ソサイエティ，他学会との連携を深めながら取り組んでいく．

◎ エレクトロニクスソサイエティ

エレクトロニクスソサイエティでは，会員にとって魅力があり，グローバルに通用するソサイエティを目指し，以下の観点からソサイエティ活動を行う．

平成12年度，当ソサイエティでは「電子化」が大きく議論された1年であった．ホームページ，情報のオンライン化の流れは時代のすう勢である．本ソサイエティとしてもWebを充実し若い人を引き込むような活動の重要性はいうまでもないが，その一方ソサイエティ全体でホームページ等を充実することは，従来の運営の枠組みからいって必ずしも容易ではない．その中，平成13年度に，ソサイエティに電子化推進委員を新設し，電子化の推進を行う予定である．

一方，ソサイエティの国際化に関しては，平成13年度からスタートするソサイエティ活性化基金を基に，従来の国際活動支援制度を発展・拡充して，萌芽的研究分野，またソサイエティの活性化につながる分野の国際会議開催などの活動を支援する．

なお，ソサイエティ独自の取り組みである，エレクトロニクス賞・レター論文賞，大会におけるプレナリーセッション，複数研究会の合同開催の場であるサマーミーティングを今後も継続し，ソサイエティの特色としたい．

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティの場合，和文及び英文論文誌に掲載される論文数が多いのに比べて，ソサイエティ大会での発表件数が少なく，ソサイエティ大会の活性化が一つの課題となっている．このため，時宜を得たトピックや，ソサイエティ論文賞を受賞した分野について，パネルディスカッションを積極的に開催するほか，大会会場にコンピュータを設置し，アルゴリズムに関するデモやコンテストを行うなど，ソサイエティ大会活性化のための様々な企画を行っており，平成13年度もこの方針を継続する．

また，経験豊かな研究者の大会への参加を促進し，ソサイエティ大会での議論を活性化する観点から，シニア会員に対する参加費の軽減策を検討する．

第2として，ソサイエティ内での情報交換を活発化させる意味からソサイエティ誌の充実を図り，ソサイエティ誌独自のアンケートやソサイエティに関するクイズを実施して，当選者に図書カードを贈呈するなどの策を講ずる．

第3として，研究分野としての関連が強い情報処理学会との共同事業の開催に向けて具体的な調整作業を行う．当面考えられる共同事業としては，共同開催の複数の研究会を行う連合研究会の構想や，ソサイエティ全体としての大会の共同開催などの案を検討する．この試みの第一歩として，従来の全ソサイエティ大会同時開催から脱却し，一部のソサイエティあるいはグループのみと同時に開催するソサイエティ大会分離開催を検討する．

第4として，コンシューマシステムなどの新しい情報分野への進出を目指し，その足がかりとして，ソサイエティ大会での特別企画や時限研究会の設置などの検討を進める．

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

インターネットの爆発的普及に代表されるように，あらゆる情報がディジタル化され，高速のネットワークで接続され，世界中のだれもが利用できる高度情報社会が急激に進展しつつある．これらの情報を有効に利用するため，人間中心の，すべての人にとって優しく，使いやすいシステムの構築を目指す必要がある．ヒューマンコミュニケーショングループは，このような社会の要望にこたえるため，広範な技術とともに人間そのものに深くかかわる心理学や社会学なども対象とし，各ソサイエティに横断的に，かつ他学会とも自由に連携できるように設置され活動を続けている．引続き，市民講座を含む企画セミナーやグループ大会等によるオープンで，柔軟な活動を続けるとともに，グループメンバーに対しては積極的にインターネットなどを利用した情報発信を工夫していきたい．

1. 大会に関する事項

各ソサイエティ合同で次により開催する．

講演件数は2,200件程度と考えられ，特別企画の充実等により各ソサイエティの特色を発揮するよう努める．

名　称　2001年ソサイエティ大会
期　日　平成13年9月18日（火）～21日（金）
場　所　電気通信大学（東京都調布市）

2. 国際会議に関する事項

各ソサイエティは，主催・共催の国際会議を次のとおり開催する．

（1） 第10回光・複合アクセス網／FSANワークショップ2001（OHAN/FSAN2001）
2001.4.4～6　横浜：横浜グランドインターコンチネンタルホテル〔CS〕

（2） COOL Chips Ⅳ－An International Symposium on Low-Power and High-Speed Chips－
2001.4.19～20　東京：機械振興会館〔ES〕

（3） 2001 International Symposium on Multi-Dimensional Mobile Communications（MDMC2001）
2001.6　Pori, Finland〔ESS〕

（4） 2001年 並列処理シンポジウム（JSPP 2001）
2001.6.5～8　京都：京都リサーチパーク〔ISS〕

（5） International Conference on Enterprise Information Systems
2001.7.7～11　Setubal, Portugal〔ISS〕

（6） 2001 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC2001)
2001.7.10～12　徳島県：ホテルクレモント徳島

〔ESS〕

(7) 第4回レーザー・エレクトロオプティクスに関する環太平洋会議 (CLEO/Pacific Rim 2001)
2001.7.15～19
千葉：日本コンベンションセンター〔CS・ES〕

(8) 2001年シグナル，システムとエレクトロニクスに関する国際会議 (ISSSE '01)
2001.7.24～27
東京：ホテルグランドパレス〔ES,CS〕

(9) Pacific Association for Computational Linguistics 2001 (PACLING 2001)
2001.9.11～14 福岡県：北九州市国際会議場〔ISS〕

(10) 7th Asia Pacific Conference on Communications (APCC 2001)
2001.9.17～21 東京：電気通信大学〔CS〕

(11) 第28回化合物半導体国際シンポジウム (ISCS2001)
2001.10.1～4
東京：東京大学数理科学研究科大ホール〔ES〕

(12) 2001 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2001)
2001.10.28～11.1
宮城県：宮城蔵王ロイヤルホテル〔ESS〕

(13) 第4回アジア太平洋情報通信シンポジウム 2001 (APSITT2001)
2001.11.5～8 ネパール・カトマンズ〔CS〕

(14) International Workshop on Advanced Image Technology 2002 (IWAIT 2002)
2002.1.17～18 台北，中華民国〔ISS〕

(15) The 2002 Symposium on Applications and the Internet (SAINT-2002)
2002.1.28～2.1 奈良県：Naraken New Public Hall〔ISS〕

(16) 9th International Conference on Theoretical and Methodological Issues in Machine Translation (TMI 2002)
2002年3月下旬 京都府 (NTTの研究所での開催を予定)〔ISS〕

3. 出版に関する事項

3.1 論文誌

各ソサイエティの独自性を尊重し，各ソサイエティにおいて編集を行うこととする．

また，12年度に引続き，和・英論文誌のCD－ROM作成，和・英論文誌の電子公開を継続することとする．

ア．和文論文誌

本文総ページ数 8,950ページ
(論文 810件，レター190件)
年間発行部数 550,800部 (月平均45,900部)

イ．英文論文誌

本文総ページ数 10,390ページ
(Paper 1,100件，Letter 220件)
年間発行部数 120,000部 (月平均10,000部)

◎ 基礎・境界ソサイエティ

	(和文論文誌)		(英文論文誌)	
	1,710	ページ	3,050	ページ
〔内 訳〕				
一般論文・レター	1,330	〃		
一般 Paper・Letter			1,080	〃
特集・小特集	210	〃	1,740	〃
(和文2回，英文15回)				
英文論文誌紹介	25	〃		
和文論文アブストラクト			55	〃
総目次	20	〃	20	〃
その他	125	〃	155	〃

◎ 通信ソサイエティ

	(和文論文誌)		(英文論文誌)	
	2,150	ページ	2,660	ページ
〔内 訳〕				
一般論文・レター	1,750	〃		
一般 Paper・Letter			1,280	〃
特集・小特集	230	〃	1,170	〃
(和文2回，英文10回)				
英文論文誌紹介	25	〃		
和文論文アブストラクト			60	〃
総目次	20	〃	20	〃
その他	125	〃	130	〃

◎ エレクトロニクスソサイエティ

	(和文論文誌)		(英文論文誌)	
	1,270	ページ	2,480	ページ
〔内 訳〕				
一般論文・レター	1,020	〃		
一般 Paper・Letter			280	〃
特集・小特集	80	〃	1,980	〃
(和文2回，英文16回)				
英文論文誌紹介	25	〃		
和文論文アブストラクト			50	〃
総目次	15	〃	30	〃
その他	130	〃	140	〃

◎ 情報・システムソサイエティ

	(和文論文誌)		(英文論文誌)	
	3,820	ページ	2,200	ページ
〔内 訳〕				
一般論文・レター	2,740	〃		
一般 Paper・Letter			1,500	〃
特集・小特集	710	〃	480	〃
(和文5回，英文9回)				
英文論文誌紹介	40	〃		
和文論文アブストラクト			80	〃
総目次	35	〃	15	〃
その他	295	〃	125	〃

3.2 ニューズレター，ソサイエティ誌

各ソサイエティごとに論文誌に挟み込み，または付録として発行する．

4. 研究会活動に関する事項

第一種，第二種，第三種の各研究会は自由度の高い活動が定着しており，13年度も更に活発に講演会，学術研究集会，サマーミーティング等を行う．

(1) 第一種研究会は，平成13年度に通信ソサイエティで2件の新設と1件の名称変更があり，また，情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループに1件ずつの新設があった．65の研